役場本庁下広場の愛称披露式

6月26日(月)、役場本庁下にある広場の愛称の披露式が行われました。

役場本庁下にある広場は、これまで大方高校生が休憩所や避難先として利用しやすいようベンチの設置を提案し、また町内建設業者のご厚意により桜の木も植樹された親しみやすい広場となり、現在に至ります。

今回、大方高校の授業の一環として、広場の愛称を付けることとなり「桜咲(おうさき)広場」という愛称を考えてくれました。

この名前の由来は、「初めて広場に来た際に、印象に残っていたのが桜で、その桜が春には満開に咲くこと」から。また、「桜という言葉を入れることで地域の方々が広場に来てくれるかもしれない」という想いが詰まった名前となっています。

披露式の様子

入野・浮津海水浴場海びらき

入野海水浴場で7月2日(日)、浮津海水浴場で7月9日(日)に海びらきのイベントが行われました。

同イベントは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続き、4年振りの開催となりました。

両海水浴場では、はじめに神事が行われ安全を祈願し、その後は「宝うばい・宝さがし」が行われました。

浮津海水浴場で行われた同イベントでは、多くの家族連れが訪れました。

宝さがしでは、合図とともに一斉に砂浜に駆けていった子どもたちが、砂浜に隠された木の札を次々と探し出し、花火やかき氷、ジュースなどの景品と交換をしていました。

錦野地区から来場した牛路優花(うしろゆうか)さんは、「宝さがしで、たくさん見つけられて良かった。川は冷たかったけど、海は温かかった」と話しました。

海の安全祈願

宝さがしをする子どもたち

まほろば くろしお Vol.24

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。

おはなし玉手箱 坂本(さかもと) あやさん

結成されて今年で22年目を迎えるボランティア団体、「おはなし玉手箱」。ボランティアの1人の「玉手箱っていいんじゃない？」の一言が名付けのきっかけとのこと。「玉手箱のように、開けばすてきなものが出てくると感じてもらえたら」と思いを込めて、年間約10回、町内外で紙芝居を上演するなど、6名のメンバーで活動を続けている。

「おはなし玉手箱」結成のきっかけは？

元々は、図書の大事さを意識してもらうため、図書を寄贈したり、読み聞かせをしたりと、個人でボランティアを行っていた人たちの集まりでした。

図書館と上林暁文学館が建てられてから、「応援するボランティアグループを作ろう」、「地域の物語を残して後世にも伝えたい」という思いで平成13年7月に結成されたのが、「おはなし玉手箱」です。

1年に1作品、地域に残っているお話や言い伝え、地域にある物などをもとに紙芝居を制作しています。完成した作品は、まず関係する地域でお披露目をしてから、ほかの地域で上演をしています。

紙芝居のモデルとなった方の知り合いがいたり、つながりも感じられて面白いですよ。

あったかふれあいセンター白田川でのお披露目の様子

紙芝居の題材の決め方は？

町にある昔ながらの物や文学、町史などから探して決定しています。今年は、黒潮町出身の文学者、タカクラテルさんを題材に新作を作っているので、完成をお楽しみに。

そのほかにも、今の町の様子が伝えられる紙芝居を作ることも新しく始めました。

過去から学び、発見することができるのも、当時のことを先人が残してくれたからです。だから、私たちも先人に倣い、「今」を将来に残すことが大事だと考えています。今後、地震や津波などの災害のほか、今何かに取り組んでいる人の様子も残していけるよう作品を作っていきたいと思います。

活動を通して感じる嬉しさややりがいは？

町内の中学・高校の美術部や地元の方に絵を描いてもらったり、地域の皆さんの力を借りて1つの作品が出来上がった時は、最高に嬉しく思います。

また、過去の出来事や言い伝えが「お話」としてみんなに伝わり、町の新たな資料として残していけるというところにもやりがいを感じますね。

今後もみんなで頑張っていきます。

上演前のあいさつを行う坂本さん(写真右)